

### 実施計画にはない事業が突然出るの

答 一般財源少なければ手を上げることも



丸山勇太郎 議員

計画行政。基本計画に基づき事業を決め、財源を見出すのが順序。起債は、将来負担比率等を先の事業も考慮し綿密に計算しているのか。

答 財政状況の試算表は作成している。ぽつと出てくる事業もあるが、一般財源をなるべく使わないで済むならと手を上げることもある。

問 直近3か年を具体的事業ベースで網羅しているはずの実施計画がおざなりではないか。公表も遅いが。

答 予算編成と連動して作成し、評価制度も採っている。公表は概ね4月。

問 予算編成と連動しているなら、予算審議に必要であり3月議会で示すべきでは。

答 編成スケジュールを考えたから検討する。

問 村長は「国の予算がついたからやる」というセリフを度々口に、計画にない事業を上げる。チャンスを活かすことも時にはあるだろうが、基本は

問 防災アプリなどは待ったなしで実現を。給食センターで大きな借金をし、図書館複合施設も控えている。大きな事業は多少村費を使っても精度

答 画5億円が9億円になったのは事実。南部グラウンドは、悪い部分を直すためには事業費が膨らんだ。当初の見通しが甘かったことは指摘のとおり。

問 予算規模や財源の見通しの甘さを露呈した事業が、給食センターと南部グラウンド改修。結果として多くの村費を使い多額の起債に繋がっている。

答 給食センターは、当初計画5億円が9億円になったのは事実。南部グラウンドは、悪い部分を直すためには事業費が膨らんだ。当初の見通しが甘かったことは指摘のとおり。

を高めた実施計画を作り、将来負担を考えた計画行政に努めてもらいたい。基本計画に明記されないながら、実施計画には出てこない事業が多数ある。達成目標値を設定した事業ぐらいいは実施計画に盛ってしかるべきは。

答 主管課の判断もあるし、実施方法が検討段階のものには載せない。

### 副村長に行政のあり方・課題を問う

答 職員自らの研さんと意識変革が重要

#### 【村づくりと行政課題】

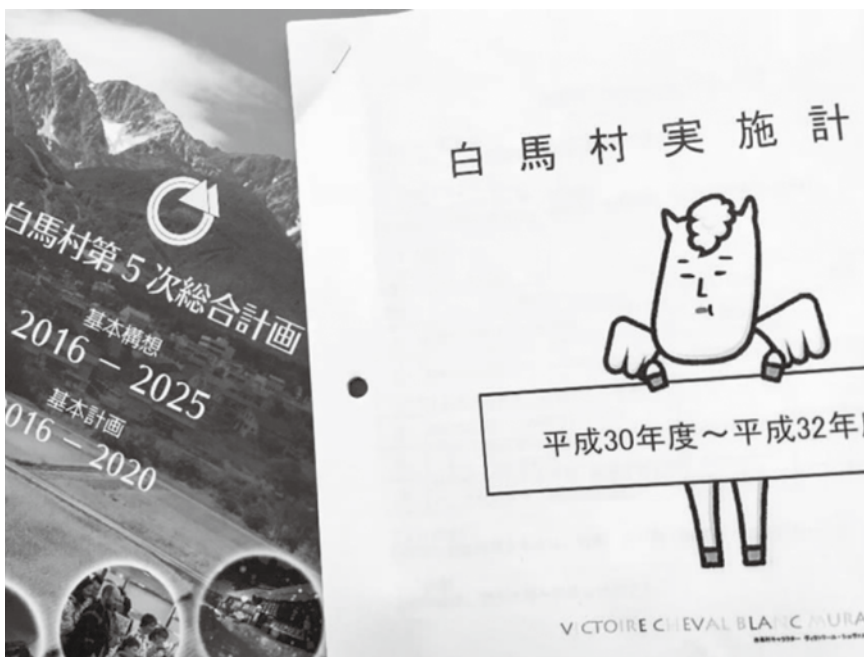
問 下川村政を支えている副村長に、今後の村づくりと行政のあり方課題を問う。

答 太田副村長 奉職40年、白馬の最高の時期と最低の時期を経験した。高度成長期とオリンピックで大規模なインフラに予算を投じなければならなかった影で、住民福祉や教育分野

の施設の充実とは自治体に比べ遅れている。観光への取り組みでは、滞在する価値のある村にするための施策は足りていない。職員が自己研さんし、地域や村のけん引役とならなければならぬ。

答 藤本副村長 課題としては、人口減少、主産業の観光の低迷など全国共通の課題が

ある。課題解決には職員の力が重要で、職員一人ひとりが意識を高めるだけでも村政は良くなる。ポジティブな気持ちで業務に当たってほしい。研修や勉強会を増やし、総務省のスタイルで内容を精査し、職員に刺激を与えていきたい。



総合計画に基づきその中身を反映し、直近3か年の具体的事業を総事業費、実施内容と財源内訳まで表したものが実施計画